

海側遮水壁閉合前後の海水モニタリング状況

2015年12月 8日

東京電力株式会社

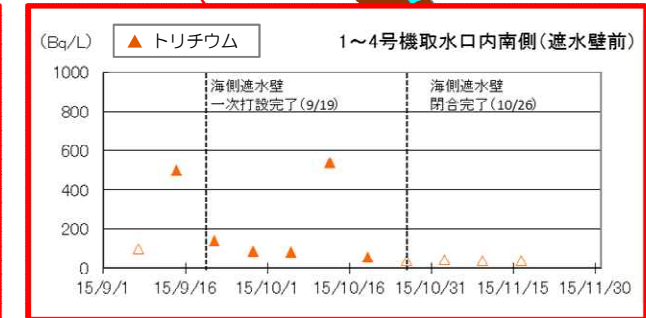
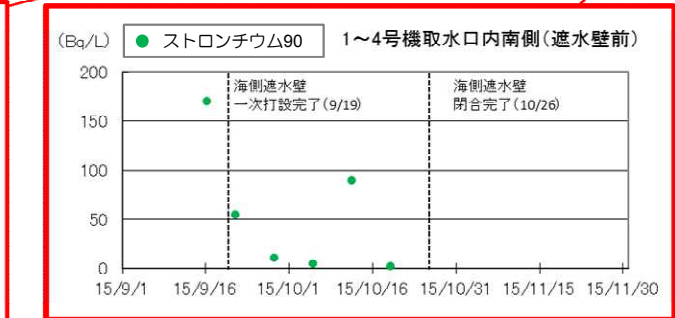
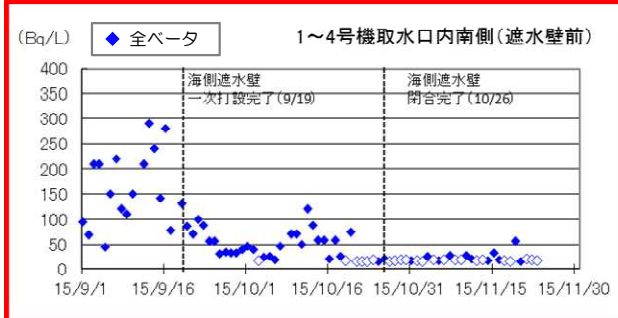
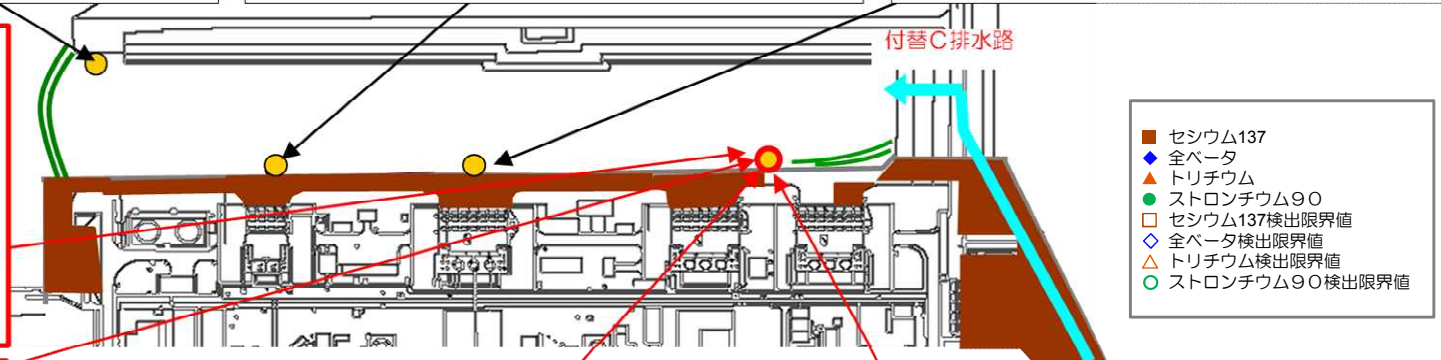
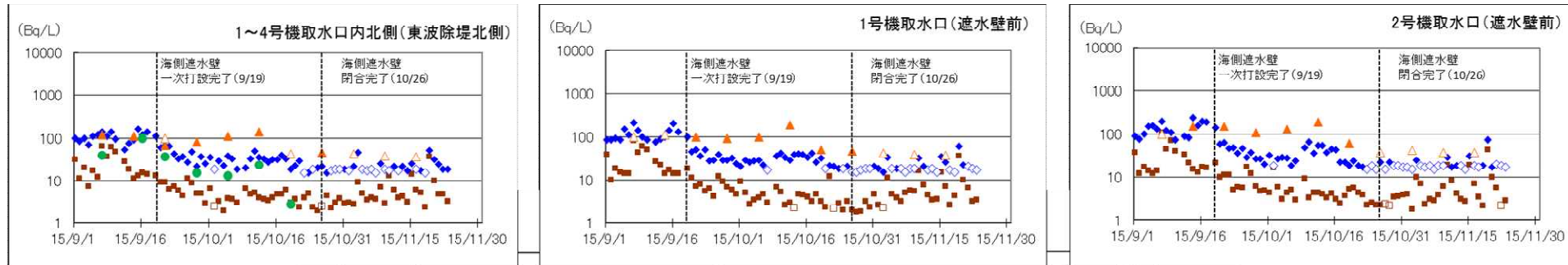


東京電力

1～4号機取水口付近の海水サンプリング結果（海側遮水壁閉合前後）

- 海側遮水壁閉合以降、1～4号機取水口付近の海水では、セシウム、全ベータ濃度、ストロンチウム濃度が低下。
11月からはトリチウム濃度も低下。
- 降雨時に、一時的な上昇が見られる場合もあるが、海側遮水壁閉合後の濃度低下が継続。

【告示濃度】Cs-137:90Bq/L, Sr-90:30Bq/L, H-3:60000Bq/L



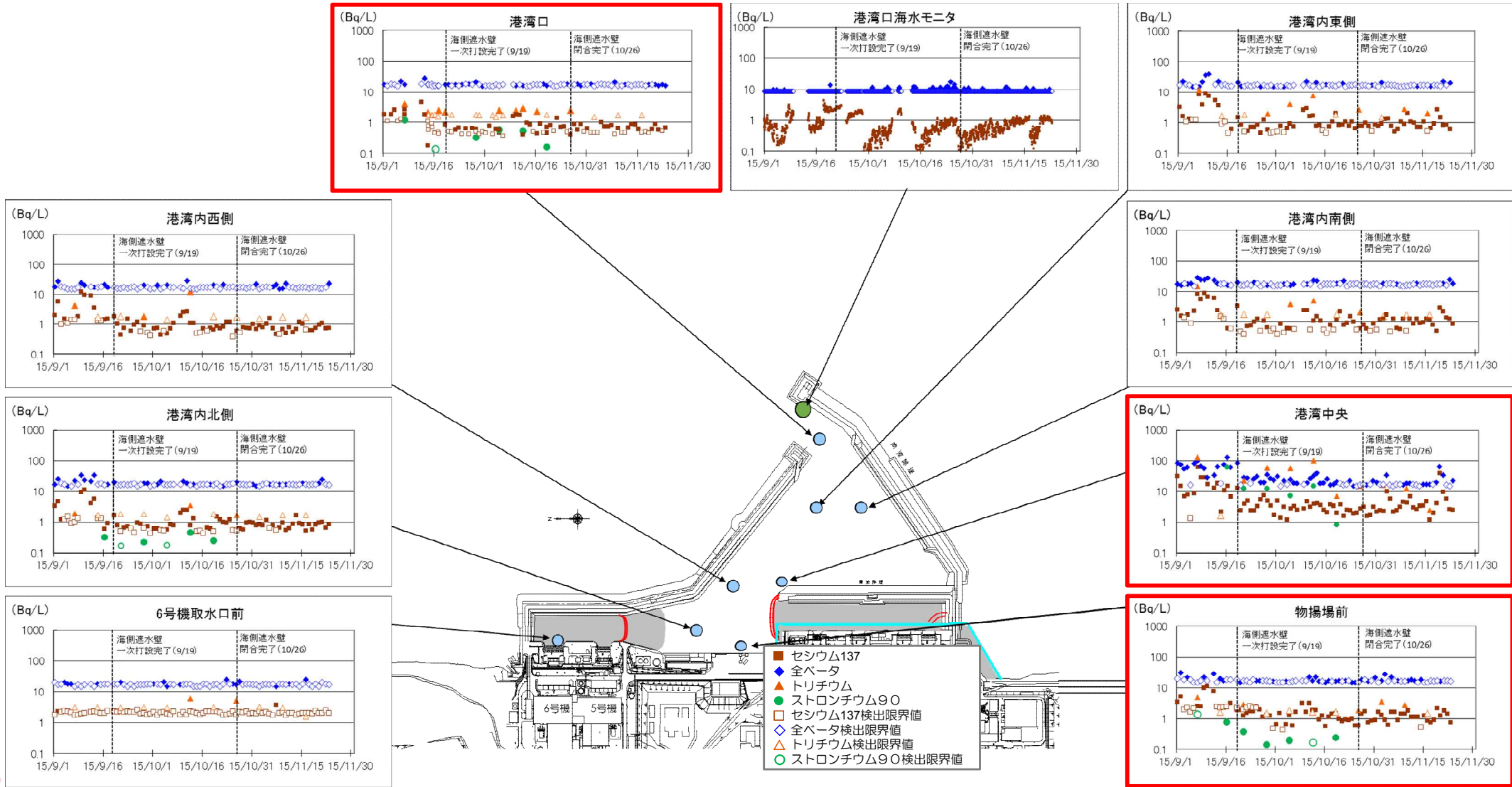
※1～4号機取水口内南側（遮水壁前）は、最後に遮水壁閉合を実施した箇所。
海水のサンプリング地点としては、閉合完了まで、地下水の影響を最も受けていた箇所。

Cs-137(セシウム137) Sr-90(ストロンチウム90) H-3(トリチウム)



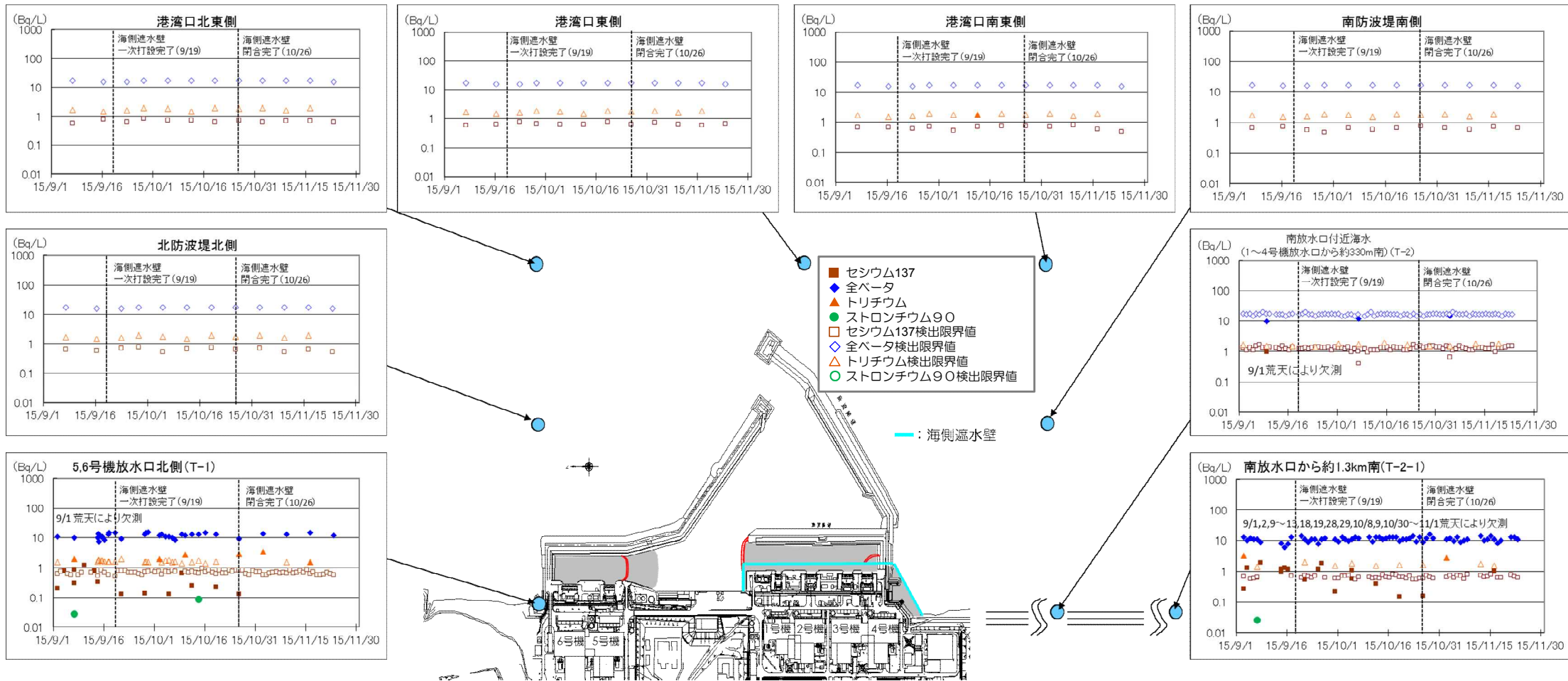
港湾内の海水サンプリング結果(海側遮水壁閉合前後)

- 1～4号機取水口付近同様、海側遮水壁閉合以降、1～4号機取水口に近い採取点を中心に、セシウム、全ベータ濃度、ストロンチウム濃度が低下。11月以降、トリチウム濃度の低下も見られる。
- 降雨時に、一時的な上昇が見られる場合もあるが、海側遮水壁閉合後の濃度低下が継続。



港湾外(周辺)の海水サンプリング結果(海側遮水壁閉合前後)

■ 港湾外の各採取点は、従来より低濃度であり、ほとんどが検出限界未満を継続。



地下水ドレン水位と港湾内海水中放射性物質濃度の推移

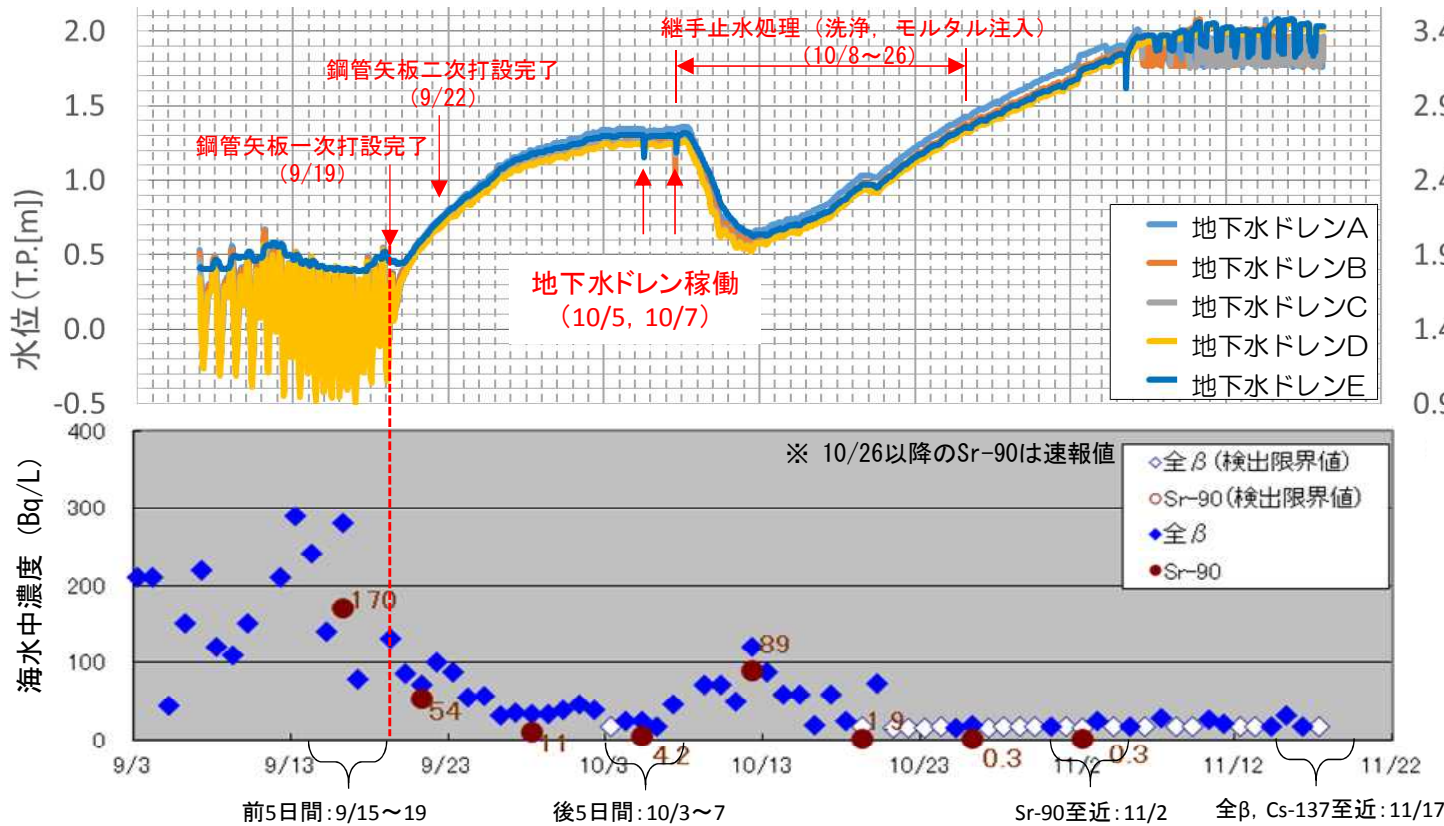


表 1～4号機取水口開渠内及び開渠外のすべての測定地点の海水中放射性物質濃度平均値 (Bq/L)

		前5日間 平均値	後5日間 平均値*1	至近 平均値*2
全β	開渠内	150	26	17
	開渠外	27	16	16
Sr-90	開渠内	140	4.2	0.3
	開渠外	16	-	4.0
Cs-137	開渠内	16	3.8	3.8
	開渠外	2.7	1.1	1.0
H-3	開渠内	185	110	38
	開渠外	1.9	9.4	3.4

図 地下水ドレン水位と1～4号機取水口開渠内（南側遮水壁前）海水中放射性物質濃度の推移

*1 後5日間は、地下水ドレン水位が一定及び降雨がない期間を選定
 *2 全βとCs-137は11/17, Sr-90開渠内は11/2, Sr-90開渠外は10/12, H-3は11/9

- 地下水ドレンポンド水位は、鋼管矢板打設後上昇し、継手洗浄（10/8～9,10/19）後に一時低下がみられたが、継手へのモルタル注入により上昇し、地下水ドレンの稼働により制御。
- 港湾内の海水中の全ベータ濃度は、地下水ドレン水位に連動して低下し、地下水ドレン稼働後もその状況が継続。ストロンチウム90の分析でも同様なデータが得られている。
- セシウムについても低い濃度で推移しているが、排水路の濃度も低くなっており、今後もモニタリングを継続。

<参考>サブドレン・地下水ドレン位置図

